

# 木古内町教頭会

2021年度 渡島公立学校教頭会 研究大会

研究発表 木古内中学校教頭 高木 寿



# 【研究主題】

～子どもの学びを保障するための  
組織作りに係る教育環境整備と、  
組織の活性化を目指した  
教頭のマネジメント力の向上～

<令和3年度の重点>

## 【視点1】

子供の学びを保障するための組織的な  
ICT機器等の活用とマネジメント





# 木古内小学校編







始業式や1年生を迎える会、  
全校朝会など、全校児童  
が集まる事ができないの  
で、オンラインにて実施



実施場所は、放  
送室スタジオや、  
体育館、PC室  
など様々





6年生は修学旅行のまとめをタブレットで作成し、  
参観日で保護者へモニターを使って報告



5年生は宿泊学習のまとめを同じく作成、報告  
AppleTVにより  
コードレスで接続





オリ・パラ授業にて、教師が用意した動画の視聴や、クイズ作りの際にロイロノートを使って整理



クイズの交流は、タブレットの画面をそのまま活用して交流活動を行う





# 6年理科「物の燃え方と空気」～ろうそくを燃やし続けるためには...の実験



あたたかくなると」  
～役場前の八重桜の  
様子を撮影







# 木古内中学校編







本時の授業の流れを投影

リコーダーの指使いを  
撮影し個人練習で確認





撮影した映像を観ながら練習

一人一台端末で  
発表内の確認







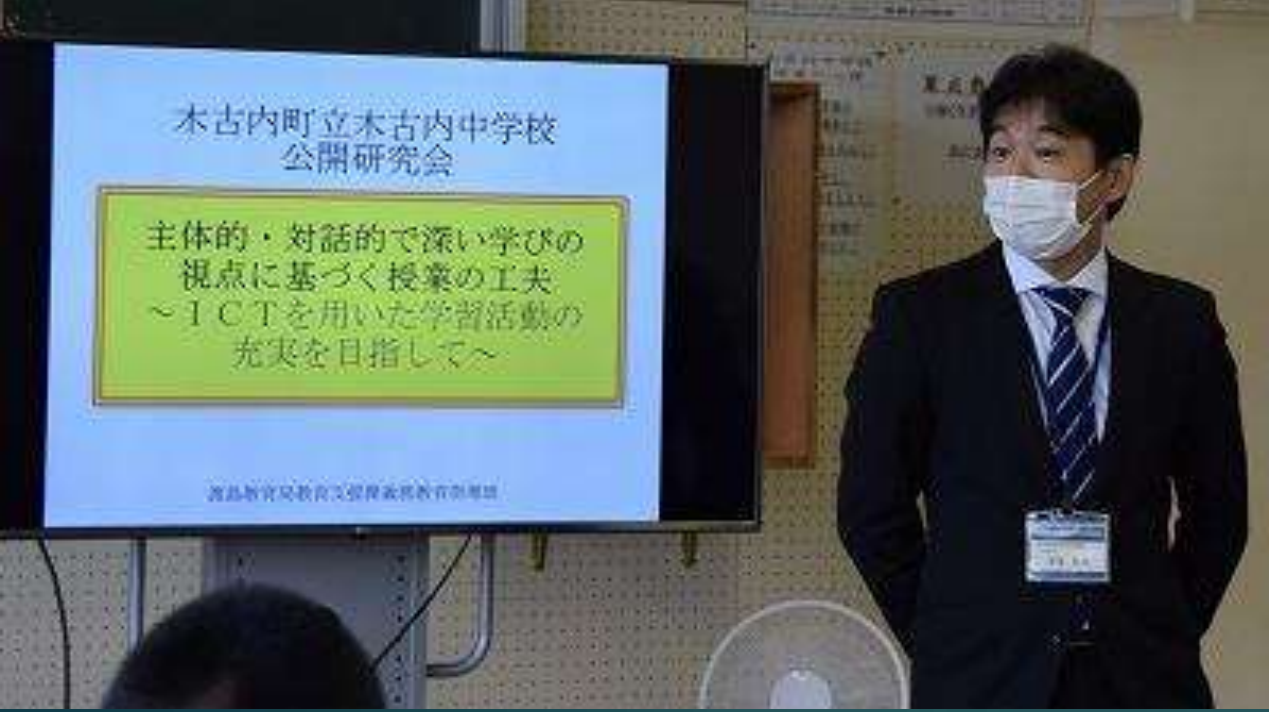
ネットで調べ学習

Google Jamboard を活用して考えを交流

Google クラスルーム を活用してグループ間発表







研究協議で、日常の実践を  
交流し、実践内容から  
今後の授業改善に活かせる  
取組を交流した。  
(指導主事学校訪問)





# 【成果】

## 一人一台端末(ロイロノート)の活用によって

- ・考えを整理したり、意見交流がスムーズ
- ・動画撮影を繰り返しチェックできる
- ・Jam board で意見交流が広がる
- ・クラスルームで振り返りや、評価に生かせる
- ・クラウド上に無制限に保存ができる



# 【課題】

## 一人一台端末(ロイロノート)の活用によって

- ・地域によってネット環境が整備されていない
- ・家庭用充電器の整備ができていない
- ・教師によってICT活用に個人差がある
- ・ツールとしての意識が薄い
- ・学校と家庭をオンラインで繋ぐ場合の訓練が必要





# 【改善策】

## ICT活用による授業改善に向けて

- ・ICT支援員 小学校:クレーバーキッズ 熊谷氏  
中学校:D-School 藤澤氏
- ・ミニ研修や個人指導の実施(活用法の具現化)
- ・校内研究での位置付け
- ・日常の交流による意欲付け



# ご清聴 ありがとうございます

▶ 2021年度 渡島公立学校教頭会 研究大会

▶ 研究発表 木古内中学校教頭 高木 寿





第56回渡島公立学校教頭会研究大会  
第2ブロック研究発表

# 七飯町教頭会における取組



令和3年11月27日（土）  
Zoom研究大会  
発表資料

## 七飯町教頭会研究主題

**「『学びの保障』を実現するための組織作りと  
教育環境整備の在り方  
～組織の活性化と教職員の資質向上を図る  
教頭のマネジメント力の向上」**

## 研究方法

- (1)各校における『学びの保障』のための  
ICT機器活用の実践例交流**
- (2) (1)における成果・課題の共有  
～課題解決の方策を探る**



# 令和3年度の研究推進について

今年度、

- ・ 町 (ICT教育推進委員会) 主催の教職員向け研修会
- ・ 各校におけるICT教育に関わる研修会は、加速度的に活発化した。



一人一台端末 chromebook

教頭会は・・

- 各校の取組状況を交流
- ICT教育、『学びの保障』に関する社会や教育の潮流をキャッチする
- 子供達に必要な環境・授業の在り方等を的確に把握

⇒ ① 自校や町に発信

② 組織の活性化・教職員の資質向上

# 各校における取組交流から

## ICT機器活用の具体的な実践について

### ～授業において～

- タブレットを活用した授業の実施  
(classroom、google meet、スプレッドシート、タイピング練習、  
課題の提出は教師のタブレットへ、  
授業中タブレット上でアンケート実施⇒その場で公表等)
- 電子黒板、デジタル教科書、実物投影機の活用  
(タブレット上で子供が提出した作品や文章を電子黒板で紹介)
- 学年での一斉図工によるプログラミング授業
- 遠隔授業の実施  
(本町立小学校と他町立田中小学校との交流授業)



## 峠下小学校と三木町立田中小学校との遠隔授業



Zoomを活用  
田中小から招待される形式で

各校児童の自己紹介  
名前や好きな食べ物、クイズ等  
で交流。画面を通して、互いに  
笑い声が溢れ楽しい雰囲気。



各町の紹介

特産物や名所等の交流  
七飯町の紹介では、りんご、仁  
山スキー場、大沼等を紹介しま  
した。

教え合い



調べもの







# 体育の授業にて





小学2年生  
算数



# 小学5年生 理科





中学3年生 キャリア学習











## ICT機器の活用

## ～授業外で～

- google formを活用したアンケートの実施（いじめアンケート、研究アンケート、行事アンケート、朝の健康観察等）
- 在宅学習児に対応したオンライン学習
- ICTを効果的に活用するカリキュラムの作成
- 教員の災害事故休暇による補欠授業体制  
（学校共有ドライブを活用した学習プリントの児童との共有、ジャムボードでの学習課題提示による自主学習、meetを活用した朝の会・授業の実施）
- chromebookの持ち帰り
- 学級活動等、日常的な教育活動下での活用
- e-ラーニング登録による臨時休業中の学習の保障
- 欠席生徒へのタブレットを介した教科連絡等

## ～組織～

- 主幹教諭を中心に教育課程編成委員会にて情報共有、取組推進
- 校内ICT教育推進委員会によるICT機器活用や研修についての計画・実践・検証  
(教頭、主幹教諭、他2名)
- 町GIGAサポーターとの連携
- 校内ICTプロジェクトチーム
- 町ICT教育推進委員会との連携

The screenshot displays a school website interface. At the top, there is a row of five illustrations with corresponding text: a boy washing hands (手を洗おう), a girl using a disinfectant bottle (消毒しよう), a girl gargling (うがいしよう), a boy wearing a face mask (マスクしよう), and a boy opening a window for ventilation (換気しよう). Below this is a header for '朝のけんこうかんさつ' (Morning Health Check). The user is logged in as '2006t002@nanae-school.ed.jp (共有なし)' with a link to 'アカウントを切り替える'. A red asterisk indicates a required field. The '学年' (Grade) section has a dropdown menu currently showing '自分の学年をえらんでください。'. Below this is a radio button selection for '学年\*' with options for '1年' and '2年'. The bottom of the page shows a Windows taskbar with icons for Office, Word, Excel, and PowerPoint, and a 'デスクトップ' button.



## ～研修～

- 町主催のICT教育(タブレット活用法)に関する研修会
- 各校における自主的な研修会の実施
- 子どもが主体的に学ぶ教材の発掘
- 安心・安全なchromebookの使用方法確認
- デジタル教材を活用した指導方法の検討
- プログラミング教育やchromebookの活用に関する研修の複数回実施、スクラッチによる教材作成(算数)の実践研修
- 教員のICT使用に関する資質向上研修の充実
- 活用事例の収集と職員への周知
- ICT活用をテーマにした校内研究による実践交流

# ～七飯小学校 校内研修の様子～







# 実践における成果について

## ～授業において～

- ・児童生徒の興味関心や学習意欲を引き出すことができた。
- ・特別支援学級の生徒が交流学級の生徒と同じ課題を別の手段で取り組むことができた。
- ・授業中の生徒への課題やアンケート結果、作品例提示の迅速性向上、集計作業の軽減
- ・電子黒板、デジタル教科書使用による音声、映像等の再生の簡素化、子どもの興味関心の向上
- ・遠隔授業をおこなう際、事前の打合せにもMeetを活用し、打合せの時間短縮を図った。





授業中における学  
習アプリ活用

すららドリル

## ～授業外で～

- ・実践を積み上げながら、持続可能なカリキュラムをマネジメントしていくために、教頭はアンテナ高く実態を把握し、ゴールを明確にした指示をしていく。
- ・在宅の児童生徒へのタブレットを介した学習は、学びの継続を考える上で有効である。
- ・連絡や結果の収集などすぐに活用でき、集団生活の向上に役立てることができた。
- ・デジタル教科書の導入により、多様な考えを引き出す一助となっている。
- ・業務の効率化や経費削減(ペーパーレス等)において効果的である。
- ・接続確認、タブレットの家庭持ち帰りについて体制を整えた。
- ・欠席生徒への細かい教科連絡、友人のノートの写真送信可能



## ～組織～

- ・「まずはやってみる」の空気を教頭がつくり、主幹教諭の具体的な指示のもと、取組が進んでいる。
- ・プロジェクトチームを立ち上げ推進の中心となる組織が明確化されたことで、職員のICT活用の意欲が高まり日常的に授業で活用し、成果を互いに共有する雰囲気醸成された。
- ・校内ICT教育委員会のメンバーが中心となり取組を進めることで、委員メンバーにリーダーとしての自覚が芽生え、自発的に段取りを決めたり、職員に対し提示するような場面が増えた。

## ～研修～

- ・児童生徒が主体的に学ぶ教材の発掘が進み、全教員が効果的にICTを活用しようとする土壌ができあがった。
- ・職員のICT機器活用スキル向上が図られた。
- ・七飯町内ICT研修会への職員の積極的な参加により、自己の活用レベルに応じた使用方法について具体的に研修することができた。
- ・ICTの得意な先生たちの雰囲気引っ張られ、不得意な先生も関心を示し、取り組むようになった。
- ・先進校より講師を招聘し授業における効果的活用場面や方法について協議を重ね、教師の指導力向上につながった。
- ・校内研修について、校内ICT教育委員のメンバーが段取りを進めることで、まとめ役あるいはリーダーとしての自覚が見られるようになった。



# ～大中山小学校の研修の様子

プログラミング～遊んでみよう！～ 講座



Micro:bit



Ozobot



スクラッチ

## 外部との具体的な協働・連携について

### 町教委

- ・町教委やGIGAサポーターとの連携は、教頭及び主幹教諭が担当。教員の研修会、町全体で購入するアプリ等について協議を行う。

### 学校間・異校種間

- ・中学校区で組織されている学習指導委員会の進行管理を主幹教諭が担当し、ICT活用について「そろえる」取組を進めている。
- ・chromebookを使用した町の教頭会の実施。「学びの保障」に関わる効果的な活用について協議。
- ・町の小中高英語教育連携協議会による中学校区における英語の授業交流、全体研究授業の実施

## 家庭・地域

- ・タブレットの家庭への持ち帰り(学校により毎日、週末等)。課題を与え、家庭で取り組ませる。
- ・必要な情報をタイムリーに発信。Wi-fi環境の確認、在宅学習児、保護者と担任が目標を共有した上でオンライン学習に取り組む。
- ・中学校区における「小中連携協議会」で学習規律・家庭学習・生活習慣等に関してそろえている。「家庭学習強調週間」を設定し、ゲームやスマホの使用時間制限を含めた家庭学習習慣の確立。
- ・安心メール(アンケート機能の活用)
- ・学校ホームページの改善



# 協働・連携の成果

## 町教委

- ・町教委やGIGAサポーターとの「学びを止めない」連携が安定し、chromebookの不具合にも迅速に対応できている。
- ・町全体でのC4thの使用。
- ・在宅学習児が時間割から参加できそうな教科を選択し、google meetを通してオンライン学習を行うことができた。チャット機能を使って意見を送信することで協働的な学びへの足がかりとなった。
- ・町のICT推進委員会とともにchromebookの様々な活用について実践交流や情報共有を実現した。

## 学校間・異校種間

- ・教頭間で具体的なICTの活用方法や研修資料等を随時交流することにより、共通理解を図り、温度差が出ないようにすることができた。

## 家庭・地域

- ・持ち帰り、使い方に関する家庭への連携以来と協力体制。
- ・中学校区統一した取組により、家庭学習の時間が増え、スマホやゲームの時間が減り、家庭や地域の意識変容につながった。
- ・紙媒体の削減、集計作業の軽減
- ・安心メールを保護者以外の関係者が登録することにより学校の状況を地域に周知。

## 視点1に係る具体的な課題

### 教頭としての働きかけ

- ・個別最適かつ協働的な学びを展開するため、教頭会で課題を集約し、校長会へ具申することにより町教委、GIGAサポーターを巻き込んで町全体として課題解決を図る必要がある。
- ・小中でのICT環境活用状況の統一性、整合性
- ・個人情報管理徹底のためのルール統一
- ・小中9年間の情報活用能力(情報モラルや操作等)の系統表・体系表、年間指導計画の整備の必要性
- ・小中でのICT環境活用状況の統一性、整合性
- ・個人情報管理徹底のためのルール統一
- ・情報モラル教育の充実、ルールの見直し

## 研修

- ・個に応じた課題、指導、タブレットを介した協働的な学びや課題解決の場面設定
- ・ICT活用に消極的な教職員への意識変容
- ・校内の交流から校外の教員との交流へ。
- ・研修ロードマップの作成
- ・デジタルとアナログの適切な使い分け
- ・特別支援学級の子どもを交えた協働の必要性
- ・ICT活用を通して子供達にどんな力を身につけさせるのか、資質能力の明確化

## その他

- ・学びを保障する環境づくりとしてはまだ不十分である。町全体で環境整備する際の予算の問題。
- ・Wi-fi環境がない家庭への対応
- ・ICT活用能力のさらなる向上、使用可能な教員の増加
- ・個人情報管理徹底のためのルール統一



## 視点1に係る具体的な改善点

### 教頭としての働きかけ

- ・この先臨時休業になることを想定し、子供達の学びの保障のため持続可能なオンライン学習の形を構築する。
- ・GIGA担当教員の組織への位置付け。
- ・ICT機器活用の頻度差による学級差、教科間の差の解消
- ・中学校が、校区内全ての小学校とのICT活用状況を見極め、中学校での活用に整合性を持たせることが重要である。教頭が中心となり各校の担当との連携を深める。
- ・先進校の授業公開等への職員の派遣
- ・町教委ICT委員会、GIGAサポーターとの連携
- ・教頭間の連携強化、教育委員会への働きかけと協働、教頭から教職員へのICT活用に関する助言

## 研修・組織

- ・活用に積極的な教職員がまず様々なことを試しながら活用していく。成果をプロジェクトチームがまとめ、ICTのメリットを全体に周知し、消極的な教職員の意識変革を図る。
- ・研究サークル等を活用し、渡島管内の教員がICT授業活用について必要としている情報を自由に交流できる場があると良い。
- ・ICT教育を通して子どもに求める資質能力の明確化。
- ・家庭環境による差についての行政の関わり。

ご静聴ありがとうございました

渡島公立学校教頭会  
第2ブロック  
七飯町教頭会



令和3年11月27日

# 八雲町立熊石中学校

教頭 田手淳

子どもの学びを保障するための組織的  
なICT機器等の活用とマネジメント

# 1 八雲町内の各学校へのICT導入のながれ

○1人1台端末の導入は、コロナウイルス感染症問題が発生する前から計画はあり。(GIGAスクール構想を受けて)



○令和2年度のコロナウイルス感染症予防に伴う、家庭での自主学習やオンライン授業の推進のため導入計画を早める。

生徒・教員分合わせて約1200台のNEC製クロームブックを導入



【令和2年度 職員向けの導入研修を実施】

- 7月 まず本校では推進教師が道研等に赴き事前研修スタート。
- 8月 町内の推進教師向け研修に参加。
- 10月 校内研修で職員に研修(全7回)。
- 11月 各校に、職員向けクロームブックが配布される。  
さらに生徒用クロームブックもほどなくして配布。



## 2 令和2年度生徒・保護者への説明の実施

- 12月 令和3年度の本格導入に向けて、試験導入開始
- 12月 オープンスクールにて生徒及び保護者への説明会





## GIGAスクール導入に向けてのロードマップ

八雲町立熊石中学校  
2020.09.24 Ver.

	全体	教師スキル	生徒スキル	指導時間 1・2年	指導時間 3年	導入委員会の活動
8月	<p>○GIGAスクール構想についての共通理解 ⇒8/26 職員会議後</p>	<p>●端末（Chrome Book）が早く前に、一定のスキルを身につけられるよう研修を行う。</p> <p>○GIGAスクール構想について ○Chrome Bookについて</p>	<p>●端末（生徒用Chrome Book）が届いてから、指導を開始する。</p>			<p>○研修用Googleアカウントの準備</p>
9月	<p>○GIGAスクール導入委員会の設置</p>					<p>○生徒スキルの指導日程・計画の検討 ○職員研修① 準備</p> <p>○職員研修② 準備</p> <p>○職員研修③ 準備</p>
10月	<p>○職員GIGA研修②（10/07・水）</p> <p>○職員GIGA研修③（10/14・水）</p> <p>○職員GIGA研修④（10/28・水）</p>	<p>○G Suite for Educationについて ○Google Classroomについて</p> <p>○eライブラリの活用と学習副教材の精選</p> <p>○フォームの活用と作成について ○スプレッドシート活用と作成について</p>	<p>◆生徒のコンピューターリテラシーの現状把握 （技術科・総合・昼休みPC室開放の状況などを交流）</p> <p>False False False False ○タイピング練習（1年・2年・3年） （技術科の中で、可能な限り継続的に取り組んでほしい）</p>	<p>相談書等</p>	<p>相談書等</p>	<p>○職員研修④ 準備</p> <p>○職員研修⑤⑥ 準備</p>
11月	<p>○職員GIGA研修⑤（11/18・水）</p> <p>○職員GIGA研修⑥（11/25・水）</p> <p>False False False False ○端末準備</p>	<p>○ドキュメントの活用と作成について ○スライドの活用と作成について</p> <p>○Classroomにメッセージや課題を作成</p> <p>○端末活用モラルの確認</p>				<p>○生徒への指導計画（綿案）の確認</p> <p>○端末準備作業</p> <p>○端末活用モラル策定 ○セキュリティーポリシー策定</p>
12月	<p>○端末活用、モラルの確認</p> <p>○端末活用モラル教室 ○<b>期末配布（冬休み前）</b></p> <p>○アンケートの活用（学校評価【生徒】）</p>		<p>○端末の使い方（1年・2年・3年）</p> <p>○端末活用モラル教室（ルール確認）（1年・2年・3年） ○タイピング練習（1年・2年）</p> <p>○フォームの活用（1年・2年・3年）</p>	<p>総1</p> <p>総2</p> <p>総1</p>	<p>総1</p> <p>総1</p>	<p>○職員研修⑦ 準備</p>
1月	<p>○職員GIGA研修⑦（冬休み中）</p> <p>○ミートSHR（5分ほど） 全クラス実施</p> <p>False False False False False False False OHRでの活用 （健康調査・点検・教科連絡など）</p>	<p>○ミートの使い方</p> <p>○活用する場面 の整理 － 事例の交流、活用してみている成果と課題</p>	<p>○クラスルームにUP（教科連絡・係活動）（1年・2年・3年）</p> <p>○ドキュメントやスプレッドシートに打ち込み（1年・2年）</p>	<p>学1</p> <p>技1</p>	<p>学1</p>	
2月	<p>○授業での活用</p> <p>○職員GIGA研修⑧（02/03・水）</p>	<p>○学習活動事例研修 － 事例の交流、活用してみている成果と課題</p>				<p>○職員研修⑧ 準備</p> <p>○端末活用事例の集約・交流</p>
3月	<p>○新年度準備</p>	<p>○活用する場面 の整理 － 活用しない・全校活用・部分活用の選別</p>				<p>○新年度に向けての活用検討</p>
新年度	OHR・授業・総合・アンケート・委員会・行事などで活用していく。					

### 3 令和2年度の活用状況

#### 【Wi-Fi環境の充実】

町内各校、校舎内のWi-Fi環境の改善工事実施により、校内でのインターネット接続がスムーズになる。同時にLTE用アンテナも設置。

#### 【クロームブックを使用する習慣】

まず、毎日クロームブックに触る習慣を目指す。

例)検温記録をクロームブックで行うことにより、クロームブックを開く習慣をつける。

※ただし熊石中学校は小規模のため利便性に疑問があり、職員で検討した結果、未導入。

#### 【毎日の持ち帰り】

毎日自宅に持ち帰り、家庭学習等に活用する。

LTE(毎月20GB)によりインターネットに接続し、家庭でも学習コンテンツにアクセス可能。

Eライブラリー(デジタル問題集)を利用した家庭学習の実施。(※令和3年度より本格運用開始)



## 4 令和3年度 学習面での運用

### 【各教科】

・グーグルクラスルーム上でレポート課題を提示し、生徒はその課題にキーボードを使用し入力して提出する。オンライン上で行われるため、ペーパーレス化や紙に記入するのが苦手な生徒に関してメリットあり。

・ジャムボードによる協働学習 ただし、今年度の本校の研究主題が対話的で深い学びに設定していることから、各教科の授業では積極的には導入していない。

### 【遠隔地との交流】

野田生中学校との授業交流・・・社会、英語ですでに複数回実施

### 【オンライン学習】

出席停止中の生徒等への授業配信

### 【オンライン講演】

防災学習(消防署員、自衛隊員より講話を受ける)

### 【オープンスクール】

各クラスレポート発表に活用予定





## 5 令和3年度 生徒会活動等での活用

### 【生徒会活動】

- ・生徒総会議案書、各委員会からの提案やアンケートの提示と回答に活用
- ・各委員会からの連絡に活用

### 【文化祭での活用】

- ・学級発表に活用
- ・動画撮影 動画編集



# 6 その他の活用

## 【学校評価】

Googleフォームで保護者・生徒・職員それぞれの立場で回答してもらうことで、集計時間が大幅に削減される。

## 【旅行的学習】

修学旅行や宿泊研修に持参し、  
自主研修やインタビュー学習で活用

## 【全校集会】

meetを使い、各教室で全校集会に参加

## 【PTA活動】

全体会をmeetで実施



### 良い表情で学校生活を送る2年生



英語の授業でデジタルデザインの発信授業でプレゼンしたり、日本の伝統文化に感動を覚えました。あなさんの笑顔は先生達のものでした。



委員会や部といったさまざまな課外活動で活躍する姿も見えてきました。担任先生や先生方、教科書や教材ボードを通して学ぶ姿、先輩の姿も毎日目に届く人。一人一人が自分の役割を担い、よく働いてくれていると思います。そういう一人一人の姿が、校舎を明るく輝かせることに繋がります。先輩がみんなになって、さらに思いの強い場所になってほしいと思います。

### 7月に学ぶ「仕事とは」

先週水曜日、基礎科1学年の1組でLH3 アフンサー・田中林華さんオンラインインタビューを行いました。アフンサーになろうと思ったきっかけや、実際の仕事について話も聞くことが出来ました。田中さんから「生徒みなさんが働くことがとても上手です。まだ話聞いてほしい」と嬉しい言葉もいただきました。田中さんは、この体験からどのようなことを学び、感じましたか、ぜひ、授業のことも考えるきっかけにしてくださいね。



写真:田中さんからのインタビューの様子。

「高校への不安解消できた」  
熊石中生 画面越し八雲高見学

熊石中生 八雲高見学の様子

八雲町立熊石中学校の生徒が、八雲町立熊石中学校の生徒と画面越しに交流し、八雲高の見学を行いました。熊石中生は、八雲高の校舎や施設、授業の様子などを詳しく説明してくれました。熊石中生は、八雲高の校舎や施設、授業の様子などを詳しく説明してくれました。熊石中生は、八雲高の校舎や施設、授業の様子などを詳しく説明してくれました。

日付	科目						予定・探訪先
	中	英	数	理	音	体	
22日(月)	抄読	理科	保健	体育	英語	数学	
23日(火)	教習車のり						
24日(水)	理科	数学	体育	水泳	音楽	総合	稲刈り 倉庫整理(2時~4時)
25日(木)	社会	英語	保健	体育	理科	総合	
26日(金)	数学	音楽	英語	体育	社会	英語	

## 7 効果

- 情報収集の広がり
- 興味関心の誘発
- コミュニケーション能力の高まり
- 書くことが苦手な生徒の文章表現の垣根が低くなる
- 印刷の省力化
- 移動時間の削減



## 8 課題・注意点

### 【破損の心配】

- ・現時点での破損はなし 使用時に開いた状態で落下すると画面損傷の可能性高い。

### 【充電について】

- ・学校に充電キャビネットを設置しているが、持ち帰りを考えると学校と自宅双方に充電タップを常備すると便利。

### 【持ち運び】

- ・ケースの用意が必要
- ・教科書、ワーク等を学校に置き、持ち物の軽量化を図る。

### 【チャット問題】

- ・生徒間での自由なやり取りは行わせないで、授業の中でのみ使用。  
教育委員会でログの管理は行っており、常にチャット内容は見られる状況にあることは生徒にアナウンスしている。

### 【教員の習熟度】

- ・来年1月12.13日Googleによる研修会を実施。他市町村からの転入職員へのサポートの必要性

### 【クロームブックが目的】

- ・何でもコンピュータ内で行おうとすることへの警鐘

### 【環境整備】

- ・通信環境の向上
- ・机上が狭い。教科書やノートとのバランス  
→デジタル教科書との親和性と授業変革の必要性

## 9 最後に

本校職員間の共通認識としては、Chrome book(情報端末)を使用することが、目標や目的になってはいけなないと確認しております。

『情報端末はあくまでも道具であり、別に定める目標を達成するための道具(補助)や目的のための手段としてあるべきだ』ということを確認して使用することが、重要な点と考えております。